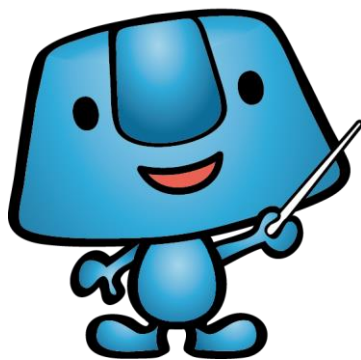




みんなのデータサイト福島ラボ開所



認定 NPO 法人ふくしま 30 年プロジェクトが本年 4 月末に活動を停止しました。ふくしま 30 年プロジェクトは、みんなのデータサイトが任意団体時の幹事団体であり、かつ設立以来の参加団体だったので、活動停止には感慨深いものがあります。そのなかで、放射能測定事業についてはみんなのデータサイトで引き継ぐこととなりました。新たに「NPO 法人みんなのデータサイト福島ラボ」として放射能測定を行っていきますので、よろしくお願いいたします。



放射能測定機器については、ゲルマニウム半導体核種分析器(PGT 社 IGC16190)一台、ホットスポットファインダー(三点同時測定ができるマルチタイプ)一台、シンチレーションサーベイメーター(日立アロカメディカル社 TCS-172B)二台、表面汚染計(日立アロカメディカル社 TGS-146)一台、未来の福島子ども基金より無償貸与されたヨウ化ナトリウムシンチレーションカウンター(ATOMTEX 社 AT1320A)一台、同じく無償貸与のホールボディカウンター(ATOMTEX 社 AT1316)一台といった構成で放射能測定事業を展開していきます。

ゲルマニウム半導体核種分析器は、これまでも測定精度の管理用として市民測定室の宝である「基準玄米」の値付けや他の市民測定室で測定された検体のクロスチェック測定など、市民測定の核として活躍してくれました。それを引き継ぎ、今後も同様に市民測定の核として活用していきます。(事務局・阿部浩美)

牛肉から基準値超過の放射性セシウム検出！



本年 9 月 3 日、NHK 福島 の WEB ニュース が「牛肉から基準超の放射性セシウム 原発事故当時の稲わらが原因」と報道した。記事の内容を引用すると以下の通りである。

福島県浅川町の牛の肉から国の基準を超える放射性セシウムが検出され、この牛に 13 年前の原発事故直後に集められた稲わらを食べさせていたことが原因だとわかりました。

この肉は市場には出回っていないということで、県は今後、事故当時の稲わらの処分状況を確認するとともに、すべての農家に対して牛の出荷前の検査を改めて行うとしています。

福島県が出荷用の農産物などについて行っているサンプル調査で、先月 22 日に浅川町の畜産農家が飼育した牛の肉から、国の基準である 1 キログラムあたり 100 ベクレルを超える 120 ベクレルの放射性セシウムが検出されました。

県が調べたところ、ことし 7 月下旬以降にこの牛に食べさせた稲わらから 1 キロあたり 1 万ベクレルの放射性セシウムが検出されたことがわかりました。この稲わらはすでに廃業した石川町の元農家が原発事故の直後に集めて保管していたもので、ことし 7 月下旬に、いつのものかわからないまま浅川町の畜産農家に譲渡されたということです。

県は今後、県内の農家に対して事故当時の稲わらの処分や保管の状況を確認することにしています。また、この牛の肉は市場に出回っておらず、県は県内すべての農家について牛の出荷前の検査を改めて行い安全性を確認するとしています。(出典：NHK NEWSWEB 福島 09 月 03 日

<https://www3.nhk.or.jp/lnews/fukushima/20240903/6050027300.html> より)

緊急時モニタリング検査結果について(福島県・肉)

No	場所	採取日	試料の種類	検査結果		
				セシウム-134 Bq/kg	セシウム-137 Bq/kg	合算値 Bq/kg
1	浅川町	09.8.22	牛肉	検出せず(<6.7)	119	120
2	浅川町	09.8.22	牛肉	検出せず(<7.2)	63.9	64

出典：福島県サイトより

セシウム 137 の半減期は 30 年なので、13 年 5 か月後の本年 9 月の残留量は事故直後の約 73% である。半減期が 2 年のセシウム 134 は約 0.1% にすぎない。よって、今回検出された放射性セシウムはほぼ全量がセシウム 137 である。福島第一原発から放出された 137 と 134 はほぼ同量だったとされているので、その合計値としての放射性セシウムは事故直後の約 37% が残留していることになる。今回の汚染稲わらが 1 キロあたり 1 万ベクレルだったということは、事故直後に遡り計算をすると、1 キ

ロあたり 2 万 7000 ベクレルだったということになる。セシウム 137 の半減期への理解が不足している日本政府や福島県（知事）の無知と怠慢の顕れである。年間 20 ミリシーベルトという非情な基準を押し付ける帰還と復興政策の中で、福島県民および農民の放射能の脅威に対する鈍感が醸成されてきた結果でもある。

ところで、この事件が起きた浅川町と石川町を MDS の土壤放射能汚染マップで確認してみた（図 1）。水戸と郡山を結ぶ水郡線の途中にある隣同士の町である。両町とも汚染は比較的軽微で、石川町双里で 1 キロあたり 794 ベクレル。比較的高い画面左下の棚倉町（棚倉城址）で 1 キロあたり 5530 ベクレルである。ここで本当に 1 キロあたり 2 万 7000 ベクレルの稲わらが採れたのだろうか。土壤から稲わらへの移行係数を調べてみると、0.005 という報告があった。単純計算すると、1 キロあたり 1 万ベクレルの土壤で栽培した稲わらなら 1 キロあたり 50 ベクレルということになる。ということは、今回の汚染稲わらのセシウムは、濃厚な放射性プルームが通過した時に稲または稲わらに降下沈着したものとししか考えられない。

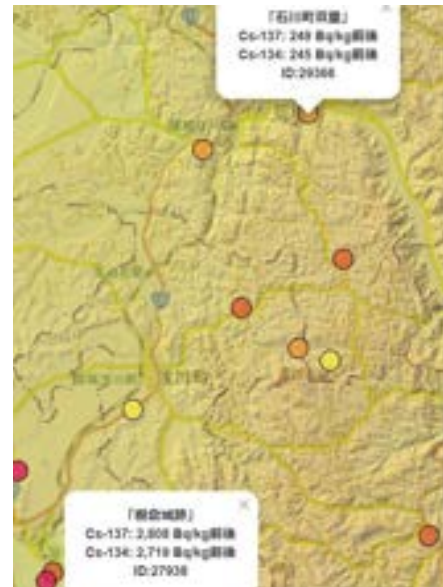


図 1 石川町・浅川町の土壤放射能濃度

放射能汚染した農業用資材は各地のビニルハウスなどで隔離保管されていたが、しびれを切らして一般ごみとの混焼処分が横行している（宮城県大崎市や岩手県一関市など）。よって、高濃度汚染した地域の汚染稲わらが何らかのルートで石川町や浅川町に持ち込まれた疑いもある。過去の資料を検索してみると、日本獣医師学会雑誌 64 巻（2011 年）の唐木英明論文には以下のような記述がある。「2011 年 7 月 14 日、福島県浅川町内の肉用牛農家 1 戸が、白河市の業者から購入して肉用牛に給与した稲わらからセシウム 1 キロあたり 9 万 7000 ベクレルが検出された。この稲わらも原発事故後に収穫されたものであった。この農家からは既に 42 頭の肉用牛が出荷され、流通していた」。なんのことはない、過去にも同じ過ちが繰り返されていたのである。

図 2 は、厚労省が集計した食品放射能検査件数と品目内訳である。2012 年 4 月から 2019 年 12 月までに 235 万件検査したうち、80%が畜産物で、そのうち 99.3%が牛肉だったという異様な結果である。狂牛病騒動で全頭検査体制が確立していたことが手伝ったのであろうが、それにしても馬鹿げている。他に測るべき食品はたくさんあったはずである。挙句の果てに、今回のような基準超過事件を起こしてしまっている。環境を守るべき環境省が除染土壌の再生利用などで放射能を全国に拡散させようとしていることと重ねて考えると、この国の政府は土台が腐り果てていなければならない。（C-ラボ・大沼淳一）



図 2 厚労省集計食品放射能検査件数および品目内訳

環境を守るべき環境省が除染土壌の再生利用などで放射能を全国に拡散させようとしていることと重ねて考えると、この国の政府は土台が腐り果てていなければならない。（C-ラボ・大沼淳一）

山形県産アカヤマドリ食品放射能 基準超過問題

みんなのデータサイトではキノコ測定プロジェクトが始まり、天然キノコの測定を行っています。

試料の入手方法は、自家採取、直売所での購入、フリマサイトやオークションサイトでの取引、ネットショップでの購入となっています。フリマサイトやオークションサイトでの取引による個人間の売買では、出荷制限地域であることが把握されないままに出品される事例や食品基準超過が想定される地域が出荷制限になっていないために基準超過の天然キノコが出品されるといった事例があります。今年も、福島ラボで測定した栃木県産チチタケから 1 キロあたり 232 ベクレルの放射性セシウムが検出されました。メルカリに出品されていた栃木県産キノコを購入して測定したのですが、メルカリの基本が匿名取引であること、また、他人に採取場所を明かしたくないこと等で、具体的な地名までは分かりませんでした。

この測定結果をもって、福島市保健所に「食品衛生法違反疑い」として通報し、福島市保健所での測定(検査)を行う段取りとなりました。ただし、福島市保健所の測定では、福島ラボで測定した同じ試料を使ったクロスチェックを行うのではなく、同じ梱包にある未着手の試料を使うことになっているとかで、保健所での結果は 1 キロあたり 94 ベクレル だったそうです。

1 キロあたり 100 ベクレルを超過しませんでしたでしたが、福島ラボでは 1 キロあたり 232 ベクレルの結果が出て保健所でも 1 キロあたり 94 ベクレルだったので、栃木県に測定結果を含めた情報を送って先方の判断に任せることにしたとのことです。



そして、ここからが本題になるのですが、この件以外にも食品基準超過の天然キノコが発見されています。それは、みんなのデータサイトに参加する奈良市所在の『はかるなら(奈良・市民放射能測定所)』がメルカリを通じて 8 月 13 日に購入した山形県産アカヤマドリ(天然キノコ)です。同キノコの放射能測定を同月 21 日に行った結果、国の基準(1 キロあたり 100 ベクレル)を超過する 1 キロあたり 273 ベクレルの放射性セシウムを検出しました。

基準超過のアカヤマドリを発見した『はかるなら』が、山形県農林水産部森林ノミクス推進課林産振興に直接連絡したところ、所在する地元の奈良市保健所を通じて山形市保健所へ正式に報告するよう求められました。そのため、『はかるなら』は奈良市保健所へ連絡。

奈良市保健所は『はかるなら』の測定結果をもって、山形市保健所へと基準超過の報告をしましたが、山形市保健所からは、「正式な機関でないところで測定された私的な測定結果は受け付けられない」と対応を断られました。

『はかるなら』では、奈良市保健所からの連絡を受け、すぐに山形市保健所に電話し、どういうことかと確認をしたところ、「奈良市保健所で測定されたものしか受け付けられない。私的な測定結果では販売者への指導もできない」という返答に終始したそうです。

この件について、みんなのデータサイトでは山形市保健所所長、山形県知事、消費者庁長官に対して、最前線で市民と接する保健所等に対して職務を周知徹底すること、合わせて、当該キノコを含む野生キノコのモニタリング検査の強化、ネット販売業者に対する放射能検査も含む指導の強化を図るよう要望書を提出しました。目下のところ 3 機関からの正式な反応はありませんが、唯一山形県の担当者からは要望書を受け取ったこと、何らかの回答をすべく部内で検討中であるとする連絡がありました。(事務局・阿部浩美)

【活動紹介】

みんなのデータサイトでは様々なプロジェクトが実施されています。プロジェクトリーダーから簡単に活動内容・近況を報告します。

(恒例) 旬のもの（夏～秋：野生キノコ）測定プロジェクト[9月29日現在](C-ラボ・大沼章子)

今年の野生キノコは加工品を含め、45件がデータベースに登録されており、食品基準の1キログラムあたり100ベクレルを超えるものは今のところ4件出ています。

単位：Bq/kg

品名	産地	セシウム 134	セシウム 137	測定日
コウタケ(乾燥気味)[ネット通販]	岩手県	不検出	619 (±7.74)	2024-09-21
アカヤマドリタケ	山形県	4.1 (±0.8)	273 (±55.00)	2024-08-18
チチタケ[ネット通販]	栃木県	3.39 (±0.26)	229 (±1.38)	2024-08-26
チチタケ	福島県南会津郡南会津町	不検出	126 (±23.1)	2024-08-24

これら食品基準超過のキノコは3件がメルカリの個人間売買、1件がネットショップでの購入です。

(2023年スタート) 市民測定室の作り方プロジェクト（つくば市民放射能測定所・藤田康元）

市民測定室の作り方プロジェクトでは、この一年、市民放射能測定室を立ち上げ、運営するためのノウハウをまとめたガイドブックを作るために、各地の測定室を対象としたアンケート調査とインタビュー調査を進めてきました。

アンケートは84カ所に送り、7月31日までに42カ所から回答をもらいました。インタビューは、アンケートの回答をくれた測定室を対象にすでに20カ所で行いました。調査結果をまとめた報告書を現在準備中です。

いろいろな方から期待の言葉をいただいているので、なんとかよいガイドブックを作りたいと思います。今後はいよいよ執筆作業を進めていくことになります。

なお、本プロジェクトは2023年度高木基金の助成を受けました。2024年度の助成も決まっています。

(新規) 原子力防災（あがのラボ・村上直行）

原子力災害は地震、津波等の自然災害に伴って複合的に発生する可能性が高い災害です。自治体職員、防災会を含めた防災に関わる人々、町内会や地域コミュニティ、家族内にも無用な被ばくを避け被ばく防護の知識を身に付けたリーダ的人材が求められています。この社会的ニーズへの一助として本年度内に真如苑助成を活用した『原子力災害に備えるための実践体験学習』を実施します。

内容は、①Zoomによる事前基礎学習に続き、

②宿泊型実地研修（1泊2日）を通じて座学のみでは身に付きにくい被ばく防護と放射線測定技術を原子力災害の影響が色濃く残る被災地（福島県）で研修するものです。

募集開始は2024年10月（予定）なお詳細は順次ホームページ、SNSで発信いたします。

データサイトの土壌マップ、イタリア・ミラノへ！！（事務局・中村奈保子）



ボンジョルノ！ 突然、イタリア語の挨拶で失礼します。事務局の中村です。今日は9月23日、私は今、ミラノにいます。

なぜ私がミラノにいるかといいますと、NipponAWAKESという団体の一員として、アートの力で東日本大震災と福島原発事故について伝える展覧会を1カ月間開催するためです。

1300 平米の広い会場に、福島や東北にまつわる総勢 30 組ほどのアーティストやその作品を 100 点以上展示しています。東日本大震災に関する、これほど大規模なアート展は世界で初めてだと思います。

そして、もちろんデータサイトの土壌放射能測定マップの展示も含まれています。アートというと現代アートをイメージして、芸術的でなくてはいけないというイメージが私にはあったのですが、そうではなく、測定活動そのものがアートなんだ、というのが今回のプロジェクト発起人・平井有太の考え方です。

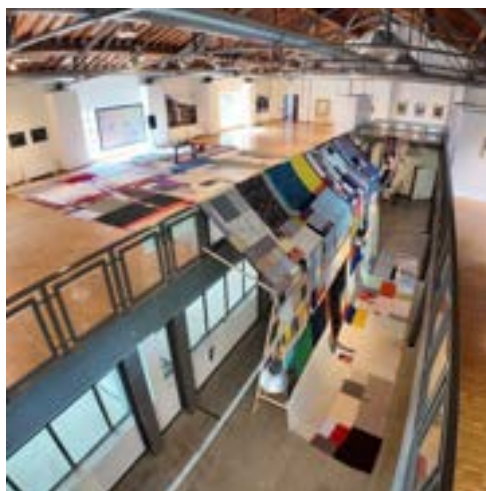
また当展示会では、東日本大震災がどのようなものであったのかを説明するコーナーを設けています。東日本大震災・原子力災害伝承館、せんだいメディアテークなどの協力も得て東日本大震災についての解説コーナーや書籍コーナーもつくりました。



写真③：東日本大震災についての解説コーナー



写真①：会場敷地を入ったところ。広場は野外映画上映や、マルシェ開催など様々な活用されています。



写真②：会場を二階から捉えました。広いです！

この活動は非営利であり、ミラノ市・日本総領事館からの後援を得て9月17日から約1カ月間10月12日まで開催しています。

9月17日の開会式では、館長のマリア・フラテッリさんが挨拶、「市民による独立した素晴らしい展覧会だ」と称賛してくれました。

イタリアはチェルノブイリ原発事故の時の放射能汚染の問題があります。データサイトのマップの説明をして、「健康被害はないのか？」という質問があります。甲状腺がんの多発と、日本政府は「因果関係を認めていない」ことを説明すると、イタリアでも同じだったよ、やはり病気が増えたけれど、政府は関係ないといったんだよ、と教えてもらいました。



観にきてくださる方は、日本や東北が好きな方はもちろん多いですが、ここは市民に開かれた場所で、多くのミラノ市民が何か新しいイベントがあるとやってきてくれるところだそうです。フラッときて、「知らなかったことがたくさんあった、来て良かった」とおっしゃってくださる方も多いです。上記写真は、ミラノ大学で日本語を学ぶ大学生3人です。（中央が中村、右端は同プロジェクトメンバーの柳澤です）

10月12日までの間に、一人でも多くの方にぜひ展覧会をみていただきたいと思います。皆様の中で、イタリアにお住まいのお知り合いの方がいらっしゃれば、是非ご紹介いただければ幸いです。

展覧会名：Legacy3.11 The Power of art and creativity from 3.11, Japan Past, Present, and Future

日時：2024年9月17日～10月12日（水曜定休）

場所：Fabbrica del Vapore（イタリア・ミラノ市）ex Cisterne（システルネ）

詳細・チラシ等：<http://profile.nipponawakes.com/philosophy.html>



また10月31日まで、クラウドファンディングにてこの展覧会の実施に不足している資金を募っています。応援をいただければ幸いです。東北の支援になる返礼品等ご用意しています。

最新の近況報告は、クラウドファンディングサイト（Campfire）で公開しています！ぜひ覗いてみてください。

→ <https://camp-fire.jp/projects/780936/view>





【告知】



福島ラボ開所キャンペーン

ゲルマでの福島県産の米や大豆、野菜等の食品無料測定を行います！！

本キャンペーン無料測定の対象となるのは福島県産限定となります。

測定をご希望の方は来所していただくか、もしくは今回同封した測定依頼書にご記入いただいた上で検体と共にみんなのデータサイト事務所宛てにお送りください。その際の送料はご負担いただきます。また、検体の返送をご希望の場合も着払いとなりますのでご了解ください。

用意いただく検体の量は 1kg を基本としますが、少量しか用意できない場合は、事前に電話及びメール等でご相談ください。

測定結果はメール、もしくは郵送でお送りします。

測定検体の送付は以下の住所宛てにお願いします。

〒960-0201 福島県福島市飯坂町字一本松 11-7 TEL: 024-573-5761 FAX: 024-573-5698
NPO 法人みんなのデータサイト メールアドレス: minnanods@gmail.com

ハウスダストプロジェクト試験測定用検体募集！！

賛助会員の方々にお願いします。本プロジェクトの開始前に試験測定の検体を募集しますので、是非ともご協力ください。

掃除機が紙パック式の場合は、掃除機から取り外した紙パックの口を空気を抜きながらテープで閉じてビニール袋で密封した後に梱包して送ってください（郵便局のレターパックが便利です）。また、紙パックの無いコードレス式掃除機の場合は、クリアビン内のゴミをビニール袋に詰めてとなります。送付する際には今回同封した採取記録表にご記入の上、下記住所宛てに測定検体と共に送ってください（紙パックとそれを密封したビニール袋の重量を測れない場合は、空の紙パックと使用したビニール袋も一緒に送って下さい）。加えて、送料についてはご負担いただくようお願いします。

検体の送付は以下の住所宛てになります。

〒467-0058 愛知県名古屋市瑞穂区関取町 146
未来につなげる・東海ネット 市民放射能測定センター（C-ラボ）
TEL: 052-836-3116
メールアドレス: tnet_sokutei@xg7.so-net.ne.jp

編集後記

ニュースレター第3号は、「福島ラボの紹介」「福島県産牛肉の食品基準超過問題」「山形県産アカヤマドリの基準超過をめぐる行政対応問題」「ミラノでの展覧会」とトピックが盛りだくさんということで第1・2号の倍の増ページでお届けしました。9月は、福島ラボでの放射能測定、助成金申請書の作成、ニュースレター第3号の編集と非常にあわただしい一か月でした。

最初は今号も前号、前々号と同じページ数で記事をまとめようと考えたのですが、ページ数を取った方が読みごたえがあると思い直し増ページ号としました。（事務局・阿部浩美）